

8日目 7月21日

会 場： 松江市営野球場

第1試合	～3回戦～																			
T E A M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E		
開 星	0	0	0	0	0	2	0	1	5							8	14	0		
安 来	1	0	0	0	0	0	0	1	0							2	7	1		
(投手-捕手)																				
・ (開)	曾田→佃→百合澤 - 蓮池																			
・ (安)	山崎→川合→福田 - 吉田																			
(長 打)	(二塁打)						(三塁打)						(本塁打)							
・ (開)	脇本、肥田												小田原							
・ (安)	二岡																			
(審判) [球審]	森島			〔一塁〕平安山				〔二塁〕安達				〔三塁〕須山								
(チーム成績)																				
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守	備	失	暴	ボ	逸	打	妨
(開)	42	14	7	2	0	1	2	4	3	1	7	2			0	1	0	0	0	0
(安)	34	7	1	1	0	0	9	2	1	0	5	0			1	0	0	0	0	0

「開星、地区大会の雪辱果たす！」

大会8日目松江会場の第1試合は、安来と開星の対戦となった。両校は松江地区大会の準決勝で対戦経験があり、この時は延長11回の激闘の末、安来が10対9で開星に打ち勝っている。試合は、安来の山崎、開星の曾田の両先発で始まった。試合途中の降雨で中断を挟み、試合終盤にはグラウンドに水が浮くなど難しいコンディションの中での試合となった。

1回裏、安来は安打と犠打で2死2塁とし、4番の大江がライトへの適時打で1点を先制する。開星は1回に2死満塁の好機があったものの、その後は2つの併殺もあり好機を作ることが出来ない展開が続いた。安来も5回まで安打による走者1人のみと、曾田の前に抑えられる展開となった。

試合が動いたのは6回表、開星は2本の安打などで1死満塁とし、5番小田原の三塁手への緩い打球が内野安打となり同点に追いつくと、続く6番蓮池がライトへの犠飛を放ち逆転に成功する。7回表にも、2塁打と内野ゴロで1死3塁と追加点の好機を作り、1番脇本がセンターへ犠飛を放つが、3塁走者の離塁が早いとのアピールで得点が認められなかった。これで安来に流れが行くかと思われたが、開星2番手の佃が好投を見せ反撃の機会を与えなかった。

すると、開星は8回表、2死1・2塁から6番蓮池のセンター前に落ちる適時打で1点追加すると、9回表には継投した投手を攻め、2番山西の適時打、3番前井出の犠飛、5番小田原の本塁打などで一挙5得点を挙げ試合を決めた。安来は、8回裏に暴投の間に1点返したが、開星の3投手による継投を前に追加点を奪うことが難しかった。

